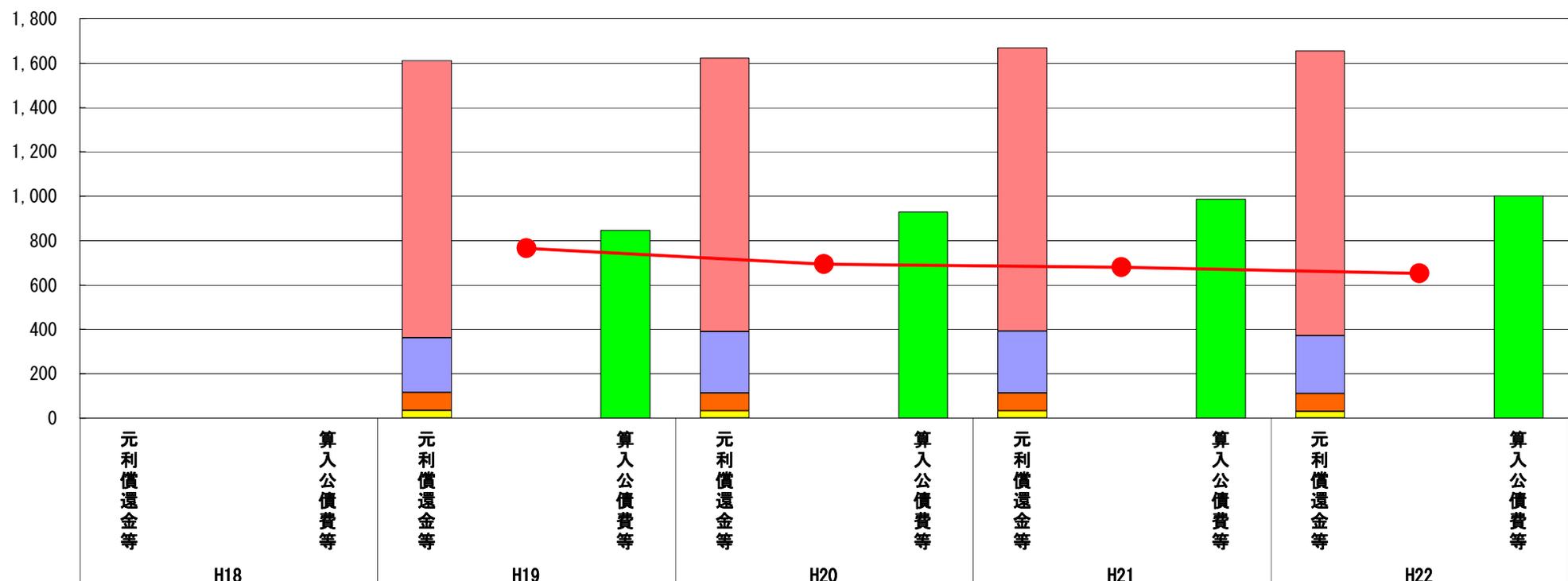


# (7) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

平成22年度

広島県海田町

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H18	H19	H20	H21	H22
元利償還金等 (A)	元利償還金	-	1,249	1,233	1,276	1,285	
	積立不足額考慮算定額	-	-	-	-	-	
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額	-	-	-	-	-	
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金	-	247	276	280	259	
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等	-	81	80	80	80	
	債務負担行為に基づく支出額	-	34	33	32	31	
算入公債費等 (B)	一時借入金利息	-	-	-	-	-	
	算入公債費等	-	845	929	987	1,003	
(A) - (B)	実質公債費比率の分子	-	766	693	681	652	

## 分析欄

14年度から16年度にかけて取り組んだ大型事業に係る事業債ごとの償還が完了するまでは、毎年の元利償還が変わらないため、元利償還金は高止まりの状態です。しかし、今後は徐々に改善していく見込みです。

また、元利償還金以外の構成も、同程度で推移していますが、算入公債費等（基準財政需要額に算入された公債費等）が増加傾向にあるため、実質公債費比率の分子は、減少傾向となっています。

※平成17年度と平成18年度において、元利償還金とは充当可能特定財源の額を控除した後の額であり、満期一括償還地方債に係る年度割相当額とは積立不足額考慮算定額を含んだ額である。

※平成23年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。